

兵庫県の経済・雇用の現状

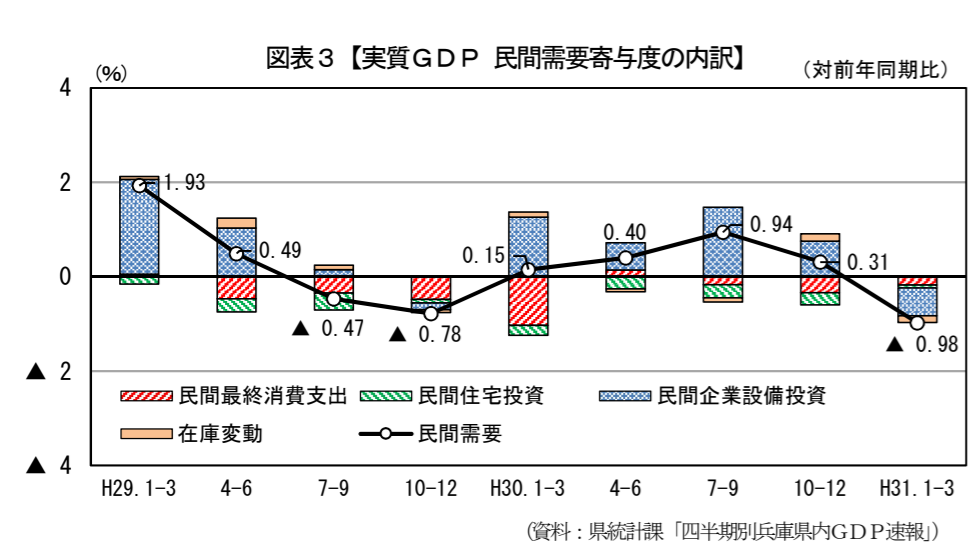
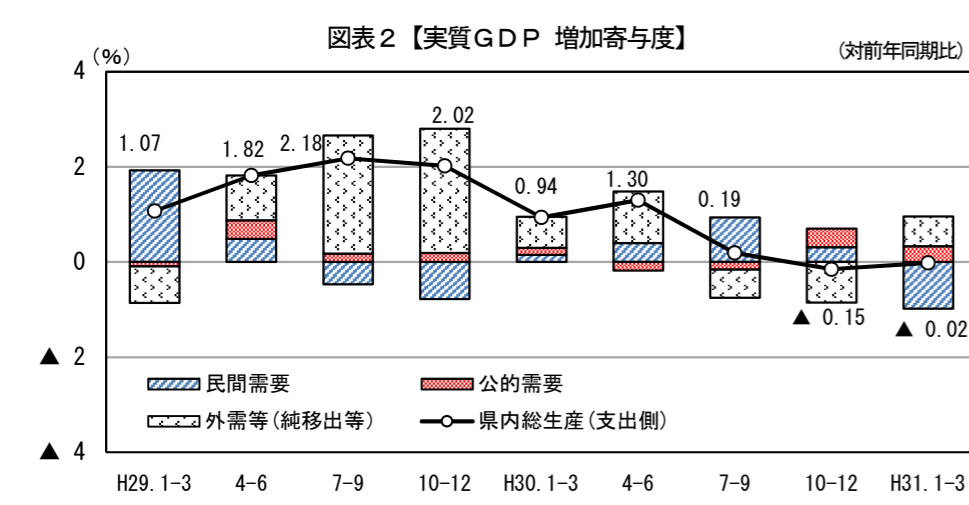
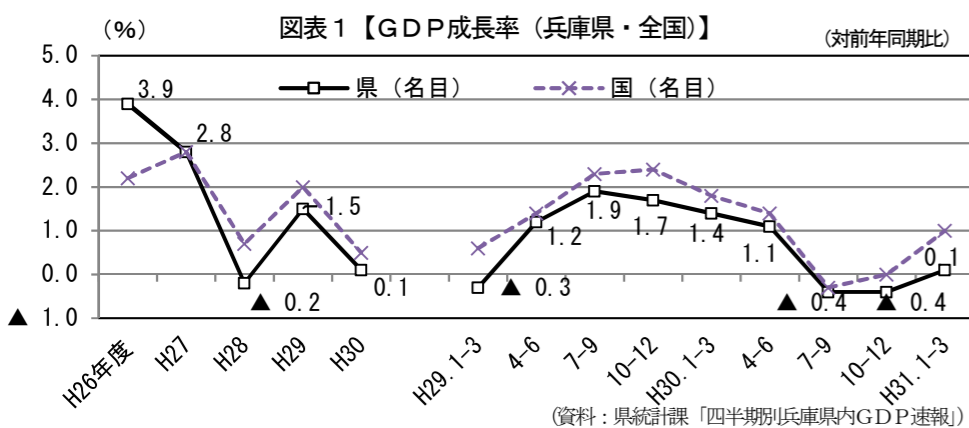
1 現下の県経済・雇用情勢

1 本県の経済・雇用情勢は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに拡大している。

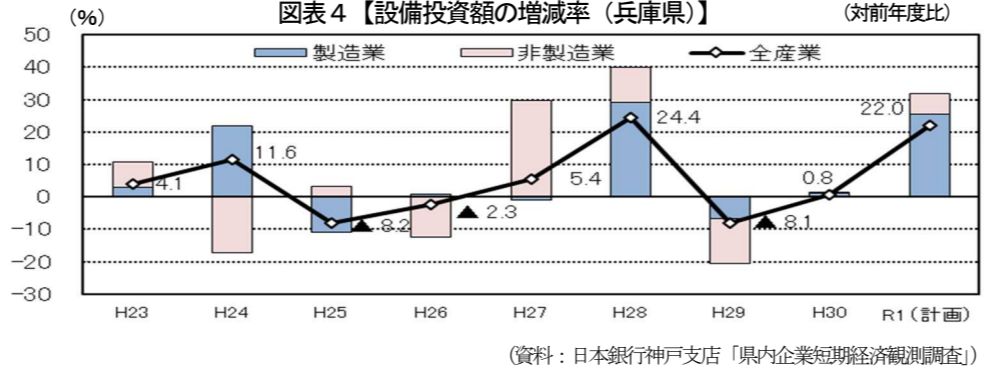
2 労働需給の引き締めや所得環境の改善とともに、企業の設備投資も堅調に推移している。

(1) GDP → プラスで推移している

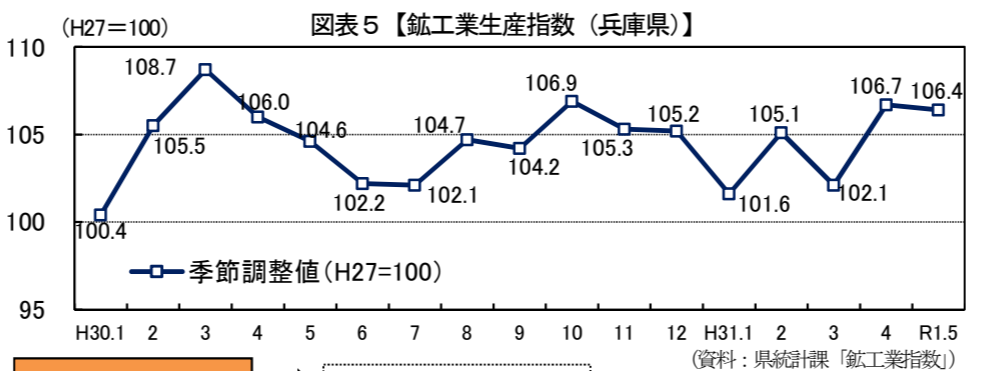
<H30年度県内総生産(速報値)>
 名目: 21.2兆円 前年度比0.1%増(国0.5%増)2年連続プラス
 (実質: 20.7兆円 前年度比0.3%増(国0.7%増)2年連続プラス)



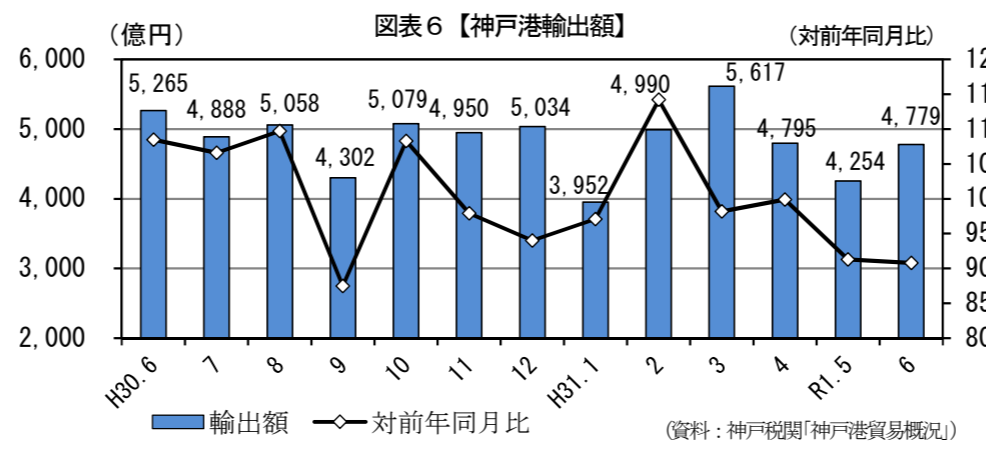
(2) 設備投資 → 高水準で推移している



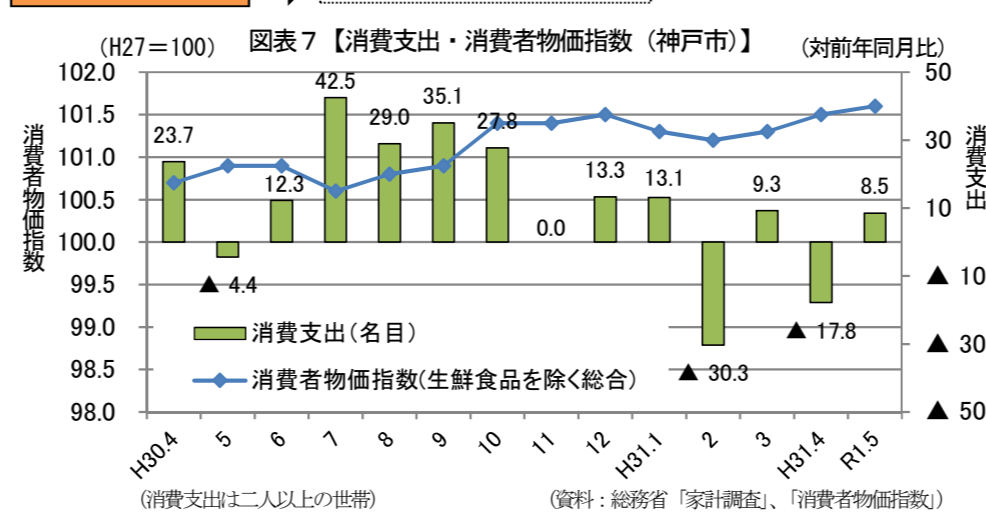
(3) 鉱工業生産 → 一部に弱めの動きがあるが、緩やかに持ち直している



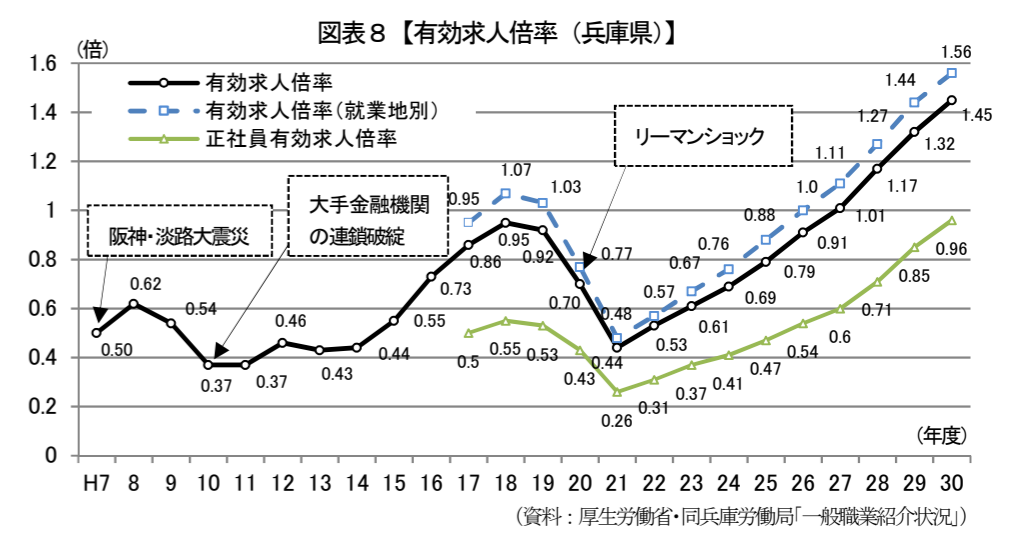
(4) 輸出 → 足もと弱含んでいる



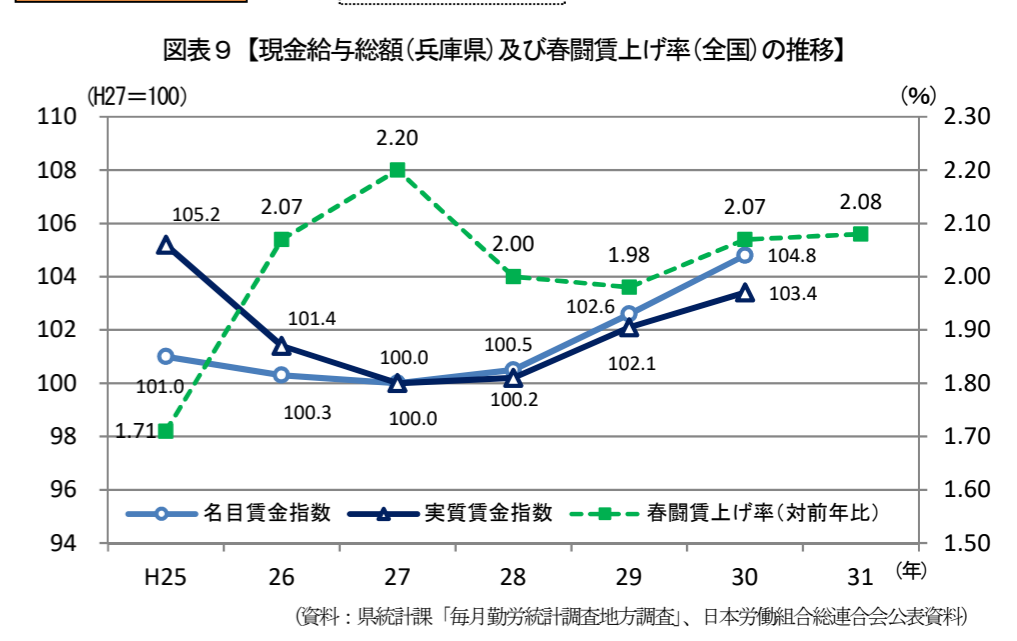
(5) 消費 → 緩やかに持ち直している



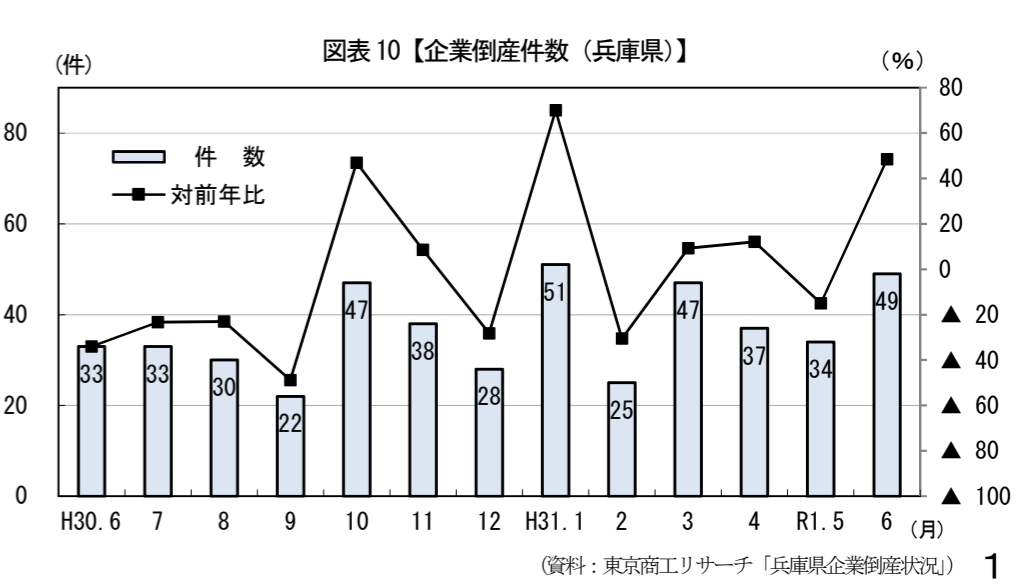
(6) 有効求人倍率 → バブル期を超える水準にまで上昇



(7) 賃金 → 上昇傾向にある



(8) 倒産 → 低い水準で推移している

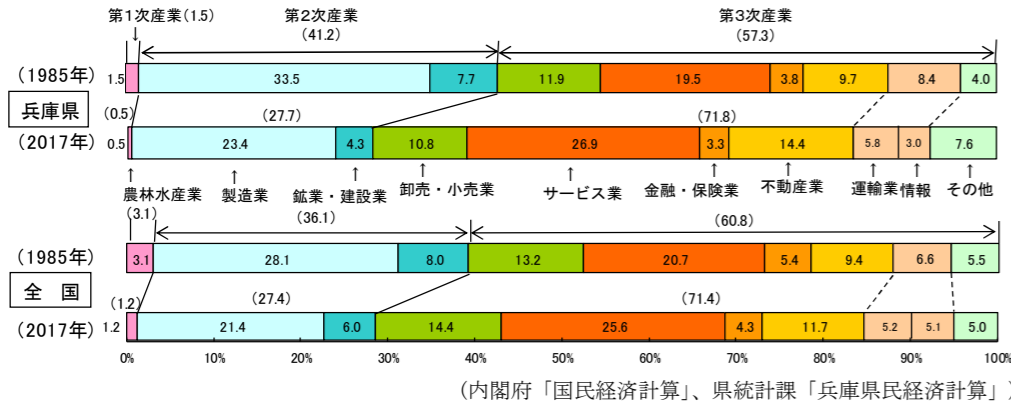


2 本県産業の構造と現状

1 産業構造の変化

- かつて県内 GDP の 1/3 を占めていた製造業のシェアが低下し、サービス業(宿泊・飲食、教育・学習支援、医療・福祉、生活関連・娯楽等)の構成比が上回っている。第3次産業が7割を超える水準まで上昇。(図表 11)
- 就業者数も、サービス業が大幅に増加。(図表 12)
- 企業規模では、中小事業所の割合が高く、事業所数で 98.9%、従業者数では 77.1%を占めている。(図表 13)

図表 11 【GDPの産業別構成】



図表 12 【県内の産業別就業者数の変化】

	1985年	(構成比)	2015年	(構成比)	増減(2015-1985)	増減率
農林水産業	106,675	4.5%	48,098	2.0%	▲ 58,577	▲ 54.9%
製造業	642,634	26.9%	453,736	18.6%	▲ 188,898	▲ 29.4%
鉱業・建設業	197,520	8.3%	156,213	6.4%	▲ 41,307	▲ 20.9%
卸売・小売等	579,129	24.3%	529,615	21.7%	▲ 49,514	▲ 8.5%
サービス業	488,604	20.5%	763,313	31.2%	▲ 274,709	▲ 56.2%
金融・保険業	80,395	3.4%	58,881	2.4%	▲ 21,514	▲ 26.8%
不動産業	23,397	1.0%	55,339	2.3%	▲ 31,942	▲ 136.5%
運輸・情報通信	171,326	7.2%	189,222	7.7%	▲ 17,896	▲ 10.4%
その他	96,288	4.0%	189,369	7.7%	▲ 93,081	▲ 96.7%
全産業	2,385,968	100.0%	2,443,786	100.0%	▲ 57,818	▲ 2.4%

(総務省「国勢調査」)

図表 13 【中小企業の占める割合(事業所数、従業者数)(兵庫県、H28)】

区分	事業所数(か所)			従業者数(人)		
	総数(a)	中小事業所(b)	(b/a)(%)	総数(c)	中小事業所(d)	(d/c)(%)
全産業	213,519	211,199	98.9	2,195,891	1,692,739	77.1
建設業	16,851	16,849	100.0	110,137	108,595	98.6
製造業	18,155	18,007	99.2	404,201	289,869	71.7
卸売、小売業	54,143	53,266	98.4	449,366	346,797	77.2
飲食店、宿泊業	29,188	28,906	99.0	206,806	179,574	86.8
生活関連サービス業、娯楽業	18,423	18,379	99.8	96,619	88,246	91.3
医療、福祉	18,964	18,530	97.7	321,523	216,366	67.3
その他	57,795	57,262	99.1	607,239	463,292	76.3

※中小事業所：常用雇用者が、卸売業、サービス業は100人未満、小売業及び飲食店は50人未満、製造業その他は300人未満

(資料：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」)

2 県内産業の状況

- 地域外から需要を獲得する移出型産業(「稼ぐ」産業)は、製造業が中心。生産額はサービス業も伸びを示している。(図表 14、15)
- 開業率は全国を上回る水準で推移(図表 16)
- 清酒、皮革など全国上位のシェアを誇る地場産業が集積(図表 18)
- 約20年間で商店街数は約3割、商店街等内の商店数は約4割減少(図表 19)
- 県内の農業生産額は横ばい、農家数は減少傾向。(図表 20)

図表 14 【移輸出超過産業(兵庫県、H27)】

	1位	2位	3位
神戸	鉄鋼(+4,113億円)	運輸、郵便(+3,966億円)	飲食料品(+2,292億円)
阪神	情報・通信機器(+1,877億円)	鉄鋼(+1,106億円)	電気機械(+604億円)
東播磨・北播磨	はん用機械(+2,014億円)	生産用機械(+1,920億円)	鉄鋼(+1,198億円)
中播磨・西播磨	電気機械(+2,119億円)	電力・ガス・熱供給(+1,951億円)	鉄鋼(+1,718億円)
但馬	宿泊、飲食サービス(+364億円)	電気機械(+261億円)	その他の非営利団体サービス(+186億円)
丹波	化学製品(+464億円)	電気機械(+211億円)	パルプ・紙・木製品(+136億円)
淡路	電気機械(+489億円)	農業(+400億円)	宿泊、飲食サービス(+371億円)
全県	鉄鋼(+8,061億円)	電気機械(+5,023億円)	運輸、郵便(+3,959億円)

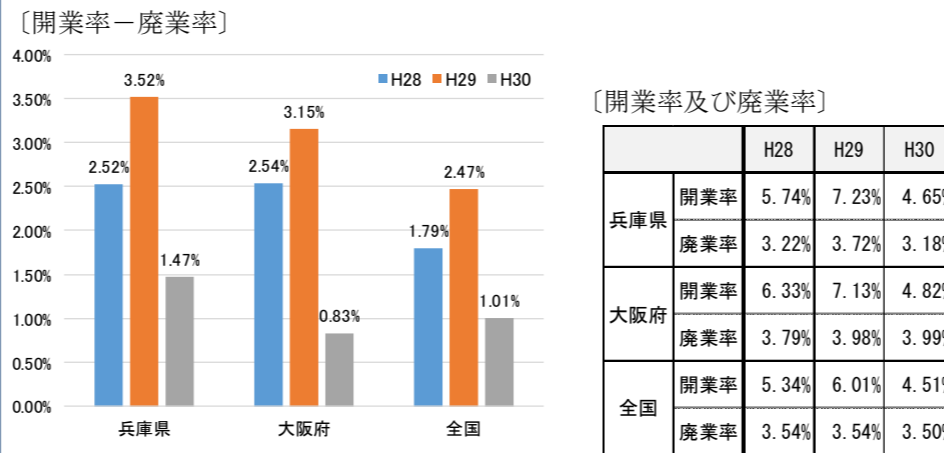
(「市町民経済計算」より県統計課試算)

図表 15 【産業別生産額の変化(兵庫県)】

業種	生産額		
	H17	H23	増減額(率)
増加業種			
鉄鋼	2,157	3,106	949(+44%)
医療・福祉	1,991	2,546	555(+28%)
化学製品	1,139	1,332	194(+17%)
情報通信	710	849	138(+19%)
対事業所サービス	1,435	1,565	130(+9%)
減少業種			
金属製品	752	577	▲ 175(▲23%)
輸送機械	1,148	961	▲ 187(▲16%)
電子部品	786	349	▲ 437(▲56%)
金融・保険	1,481	1,041	▲ 440(▲30%)
建設	2,289	1,569	▲ 720(▲31%)

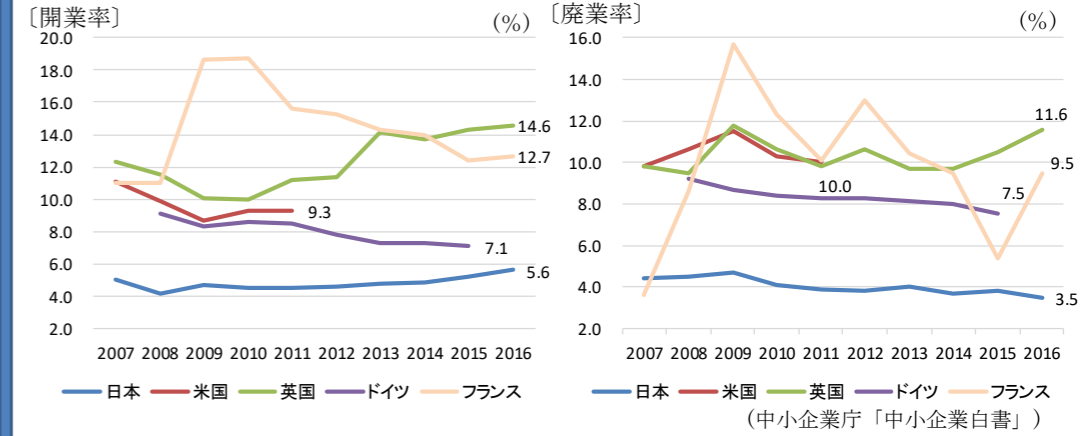
(県統計課「兵庫県産業連関表」を基に県産業政策課作成)

図表 16 【開業率・廃業率の推移(兵庫県、大阪府、全国)】



(資料：厚生労働省「雇用保険事業統計」を基に県産業政策課作成)

図表 17 【開・廃業率の国際比較】

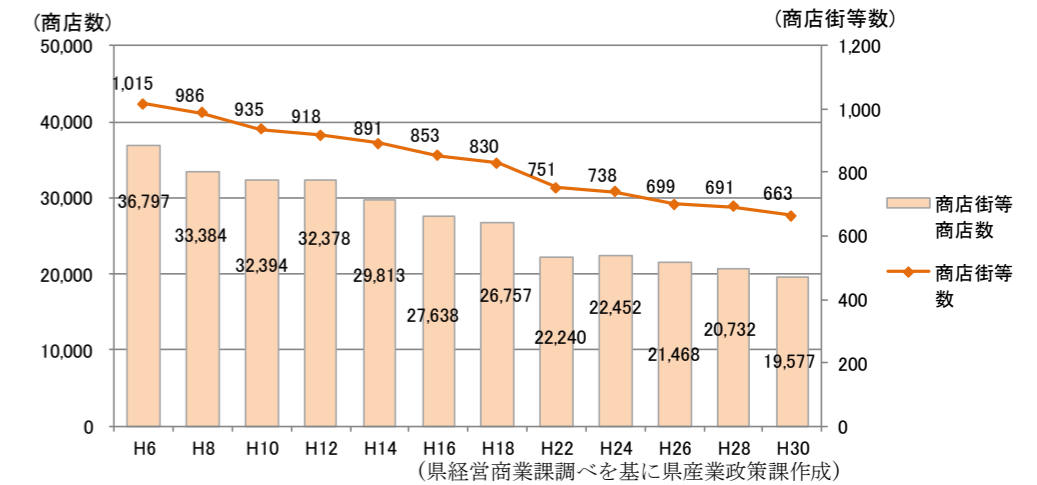


図表 18 【地場産業の生産額等(H27)】

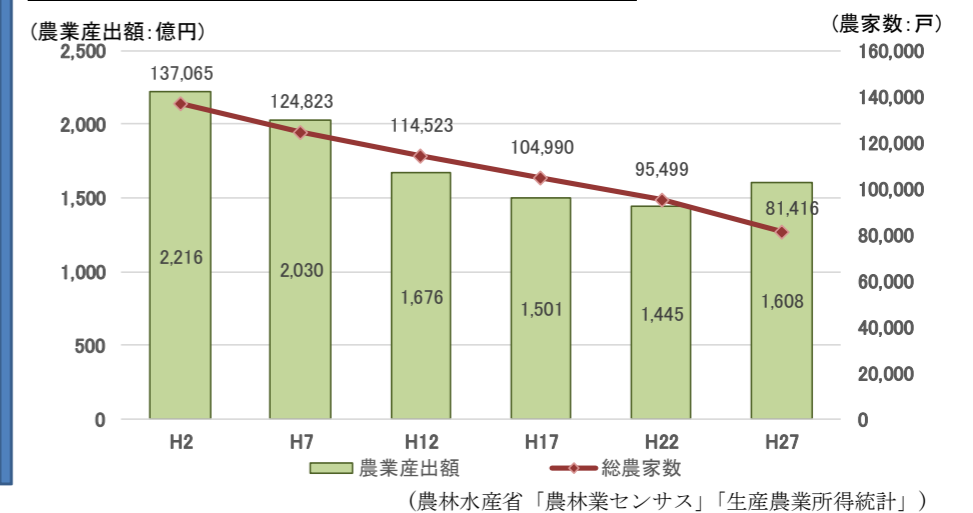
地場産業	生産金額(百万円)	企業数	全国順位	全国シェア(%)
清酒	104,344	75	1位	24.0
ケミカルシューズ	29,030	68	2位	15.1
播州織	23,654	182	3位	12.4
皮革	14,332	274	1位	44.5
利器工器具	20,952	154	4位	12.2
手延素麺	15,494	450	1位	41.7
釣針	11,313	69	1位	79.1
線香	11,401	15	1位	40.2
豊岡かばん	10,581	61	1位	32.8
靴下	7,305	64	3位	6.9
真珠加工	4,076	73	2位	33.0
粘土瓦	3,039	81	3位	9.6

(総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」、各産地組合調査)

図表 19 【商店街・商店数の推移(兵庫県)】



図表 20 【農業産出額、農家数の推移(兵庫県)】



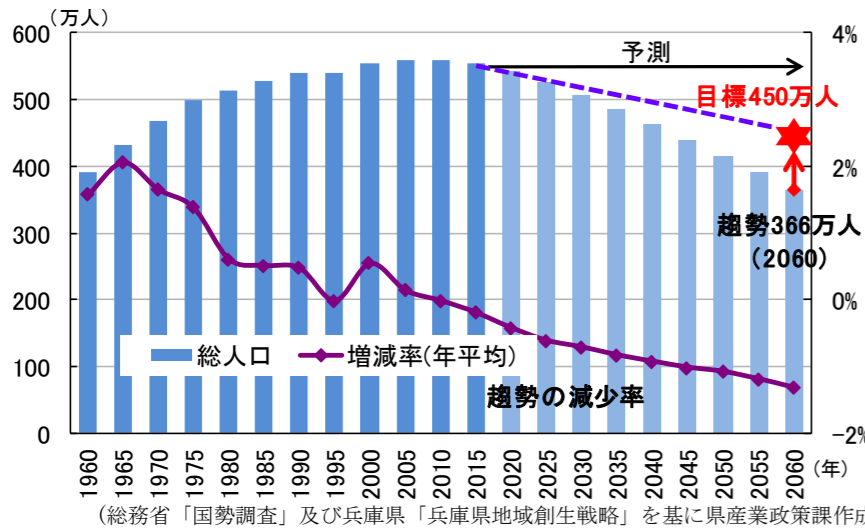
(農林水産省「農林業センサス」「生産農業所得統計」)

3 人口構造の変化と労働力不足の深刻化

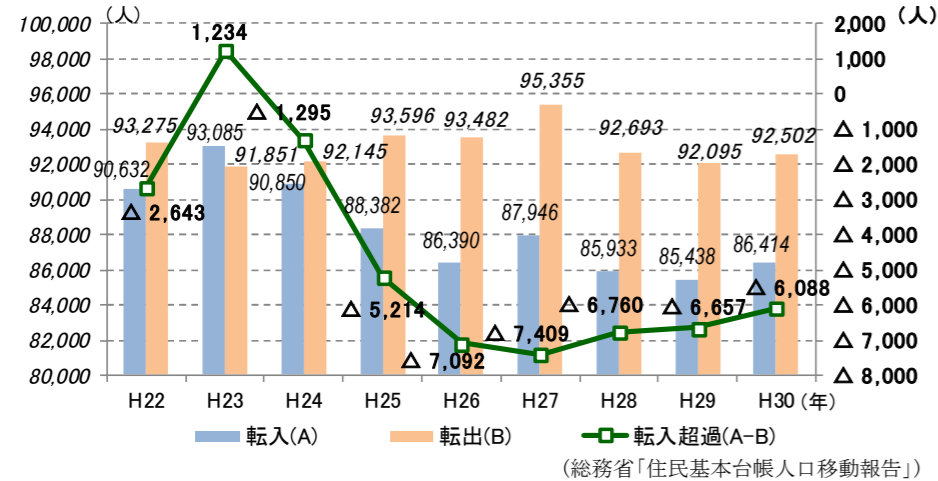
1 人口減少・少子高齢化の進展と若年世代の流出

- (1) 総人口は、2009年11月(560万478人)をピークに減少。現在の出生率及び転出入の趨勢が続いた場合、2060年の県人口は366万人となる見込み。「兵庫県地域創生戦略」の推進により、450万人に維持することを目標としている。(図表21)
- (2) 近年、転出者が転入者を上回る社会減の状況に陥っており、6,000~7,000人程度の転出超過が続いている。(図表22)
- (3) 特に20歳代の転出超過が拡大している。(図表23)

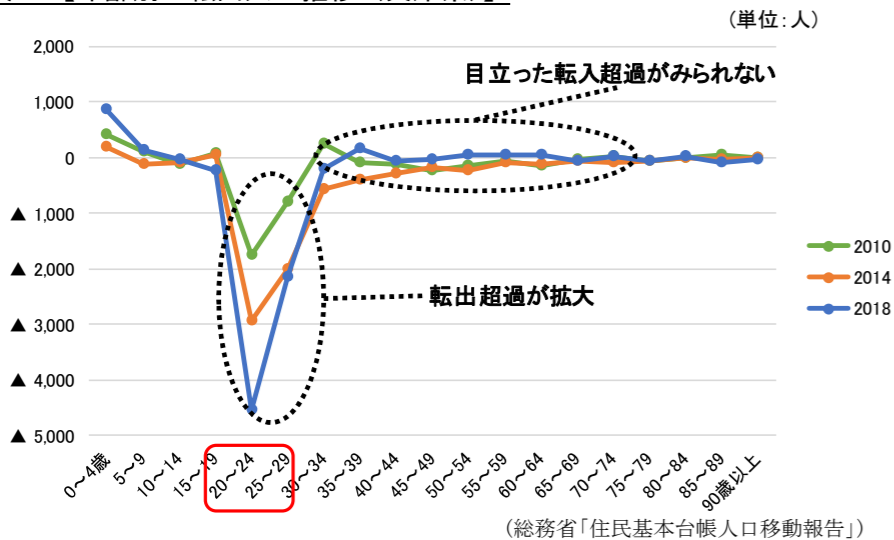
図表21【人口推移の見込み(兵庫県)】



図表22【人口転出入の推移(兵庫県)】



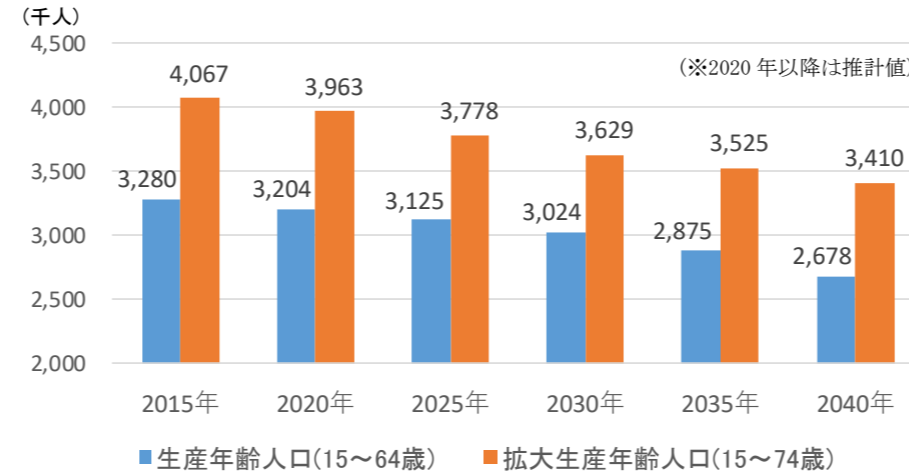
図表23【年齢別の転出入の推移(兵庫県)】



2 生産年齢人口の減少と労働力需給のミスマッチ

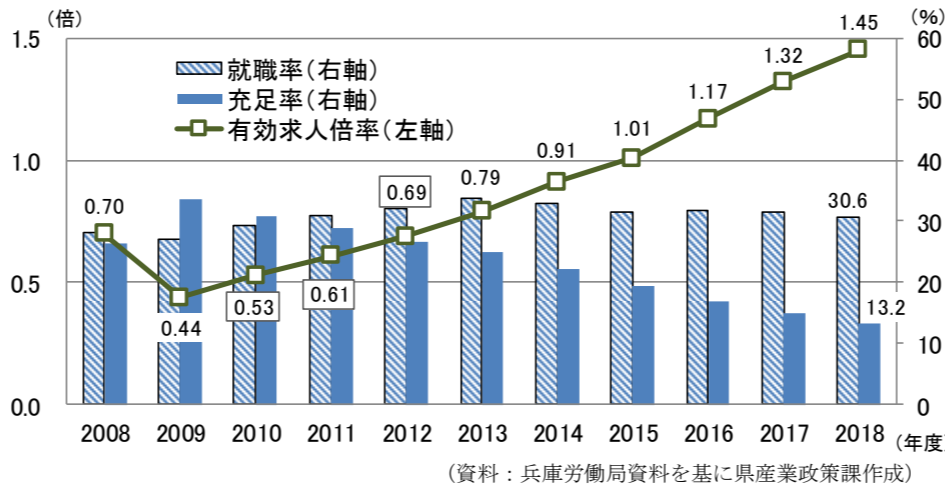
- (1) 人口減少・高齢化により、生産年齢人口が減少。拡大生産年齢人口は2040年まで2015年の生産年齢人口を上回る推計(図表24)
- (2) 有効求人倍率はバブル期を超える水準。生産工程や販売など多くの職種で求人超過である一方、事務職は求職が超過し、雇用のミスマッチが生じている。(図表25、26、27)
- (3) 求人超過の職種では賃金水準も低い傾向がある。(図表28)
- (4) 地域別では、淡路、中播磨、丹波地域で求人超過割合が高い。また、阪神、神戸地域の賃金が高くなっている。(図表29)

図表24【生産年齢人口及び拡大生産年齢人口の推移見込み(兵庫県)】



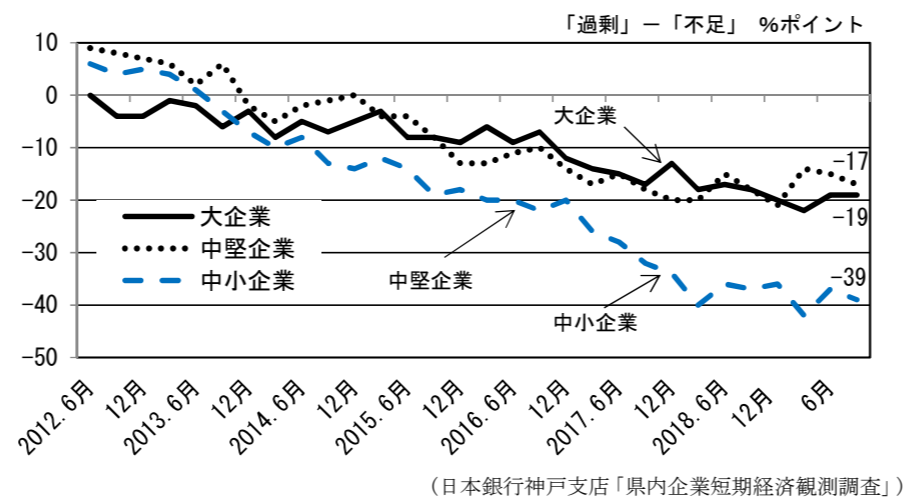
(総務省「国勢調査」及び「兵庫県地域創生戦略」を基に県産業政策課作成)

図表25【有効求人倍率と就職率・充足率推移(兵庫県)】



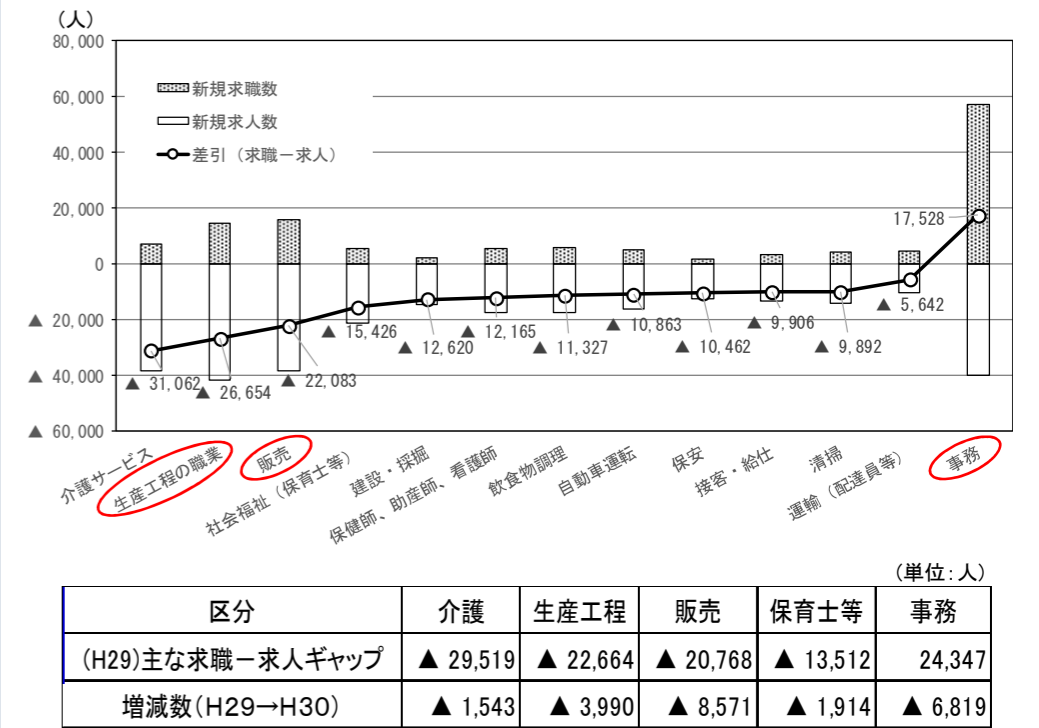
(資料: 兵庫労働局資料を基に県産業政策課作成)

図表26【雇用人員判断DI(兵庫県)】



(日本銀行神戸支店「県内企業短期経済観測調査」)

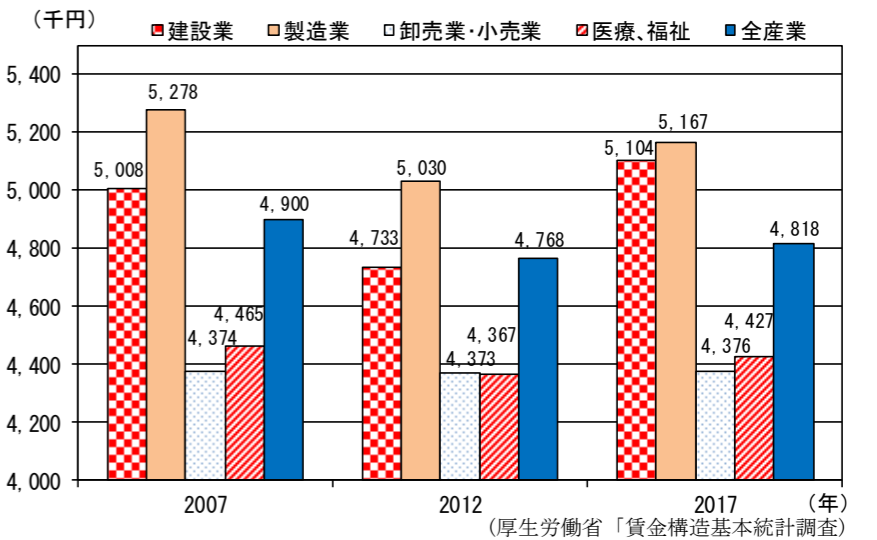
図表27【職業別新規求人数、新規求職数(兵庫県、H30)】



区分	介護	生産工程	販売	保育士等	事務
(H29)主な求職-求人ギャップ	▲ 29,519	▲ 22,664	▲ 20,768	▲ 13,512	24,347
増減数(H29→H30)	▲ 1,543	▲ 3,990	▲ 8,571	▲ 1,914	▲ 6,819

(兵庫労働局の資料を基に県産業政策課作成)

図表28【主要業種の年間賃金比較(兵庫県、H29)】



(厚生労働省「賃金構造基本統計調査」)

図表29【県内地域別求職数・求人数、地域別求人賃金(H30)】

区分	新規求職 (A)	新規求人 (B)	求人超過割合 (B)/(A)	平均求人賃金 (月額)
神戸	65,591	117,539	1.79	235
阪神南	36,264	72,492	2.00	248
阪神北	12,125	16,701	1.38	246
東播磨	29,401	40,619	1.38	231
北播磨	6,547	15,125	2.31	220
中播磨	20,929	50,474	2.41	220
西播磨	9,497	17,609	1.85	196
但馬	7,833	17,013	2.17	212
丹波	4,440	10,686	2.41	218
淡路	3,950	11,050	2.80	214
全県	196,577	369,308	1.88	232

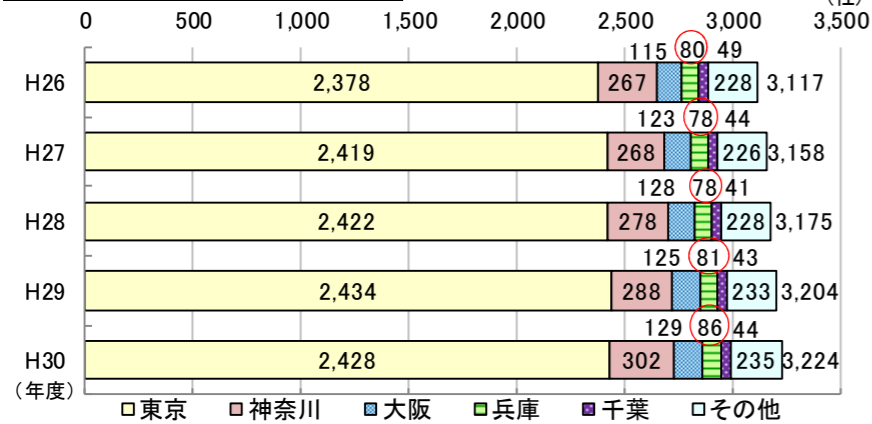
(兵庫労働局の資料を基に県産業政策課作成)

4 国際化の進展と交流人口の拡大

1 国際化の状況

- (1) 県内に本社を置く外国・外資系企業は86社で、近年微増傾向にある。(図表30)
- (2) 県内企業の海外進出は増加傾向にあり、特にアジア地域への進出数が伸びている。(図表31)
- (3) 県内の外国人労働者は約3.5万人で、国籍別ではベトナムが約4割を占めている。(図表32、33)

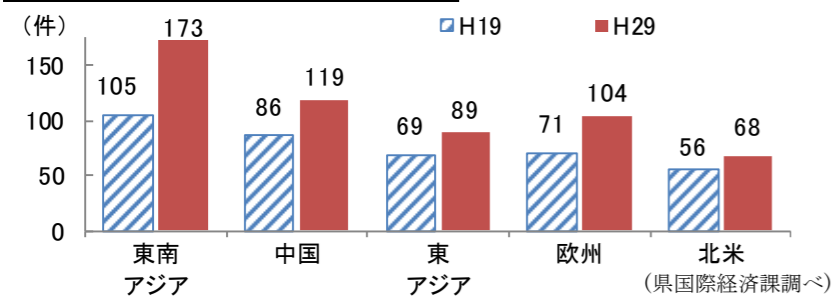
図表30【外資系企業の本社数】



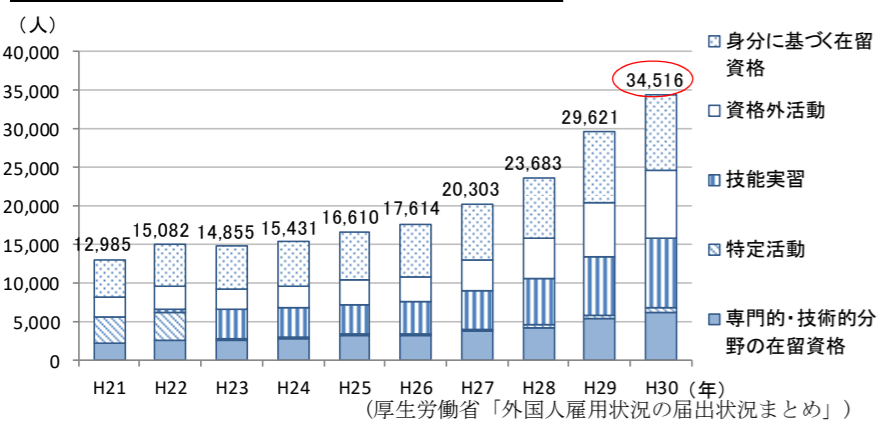
〔県内外資系企業の業種別内訳(H30)〕

業種	機械・機器	化学関連	食料品関連	情報システム	医薬品関連	鉄鋼・金属	紙・繊維・衣服	その他卸売	その他	合計
件数	34	10	5	5	3	2	2	16	9	86

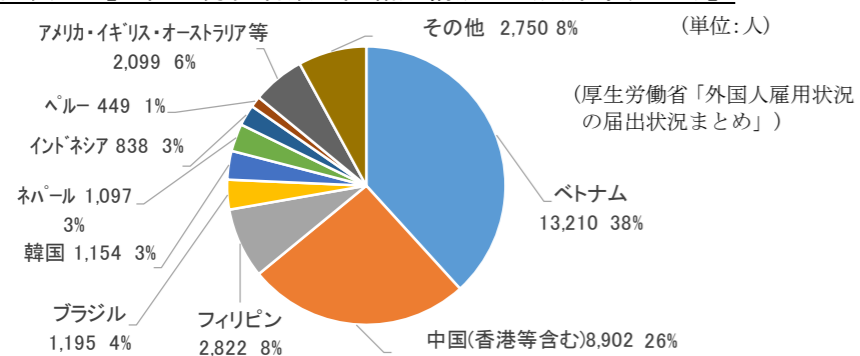
図表31【県内企業の海外進出件数】



図表32【外国人労働者数の推移(兵庫県)】



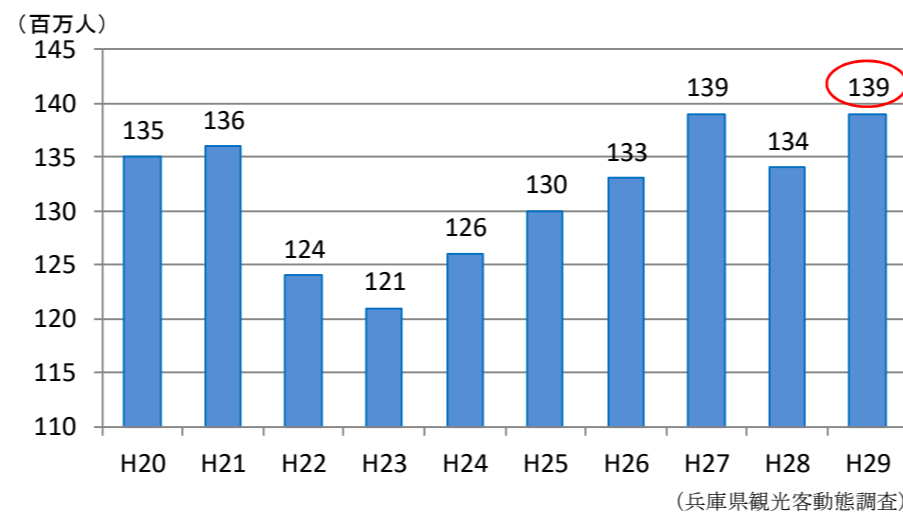
図表33【外国人労働者数の国籍別構成比(兵庫県、H30)】



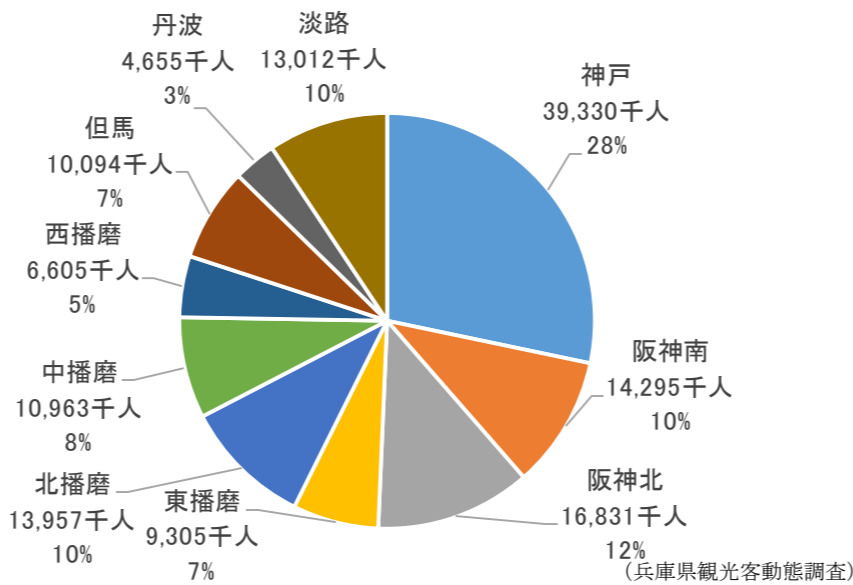
2 ツーリズムの状況

- (1) 観光入込客はH29に過去最高を記録(1億3,905万人)するなど、増加傾向にある。地域別では、神戸・阪神地域で約半数を占めている。(図表34、35)
- (2) 入込客のうち宿泊客は約10%であり、旅行目的は「スポーツ・レクリエーション」が最も多く、「歴史・文化」、「イベント」が続く。(図表36、37)
- (3) 外国人旅行者については、旅行者数、宿泊者数ともに増加しているものの、近隣の大阪府、京都府を下回る。(図表38、39)
- (4) 宿泊施設の稼働率は全国平均を下回っている。(図表40)また、東京、箱根・富士山、京都、大阪といういわゆる“ゴールデンルート”を巡る外国人旅行者の訪問が少ない。(図表41)

図表34【観光入込客数(兵庫県)】



図表35【地域別観光入込客数(H29)】



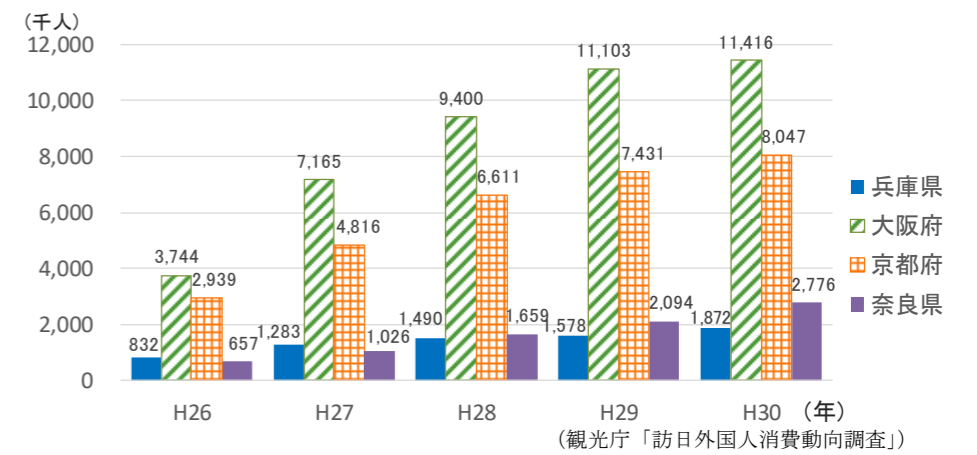
図表36【日帰り・宿泊の状況(H29)】

区分	入込数 (千人)	構成比 (%)
総数	139,047	100.0
日帰客	126,245	90.8
宿泊客	12,802	9.2

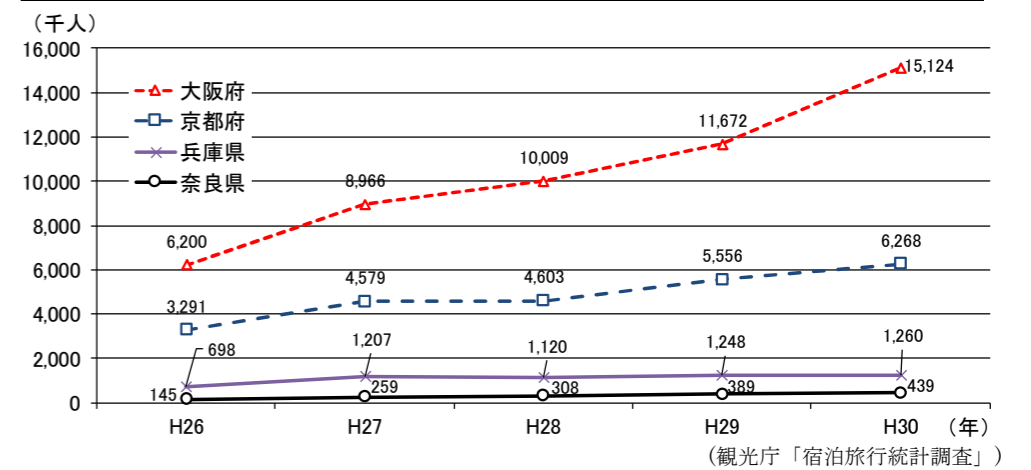
図表37【目的別入込の状況(H29)】

区分	入込数 (千人)	構成比 (%)
総数	139,047	100.0
スポーツ・レクリエーション	36,014	26.0
歴史・文化	29,778	21.4
行祭事・イベント	28,213	20.3
都市型観光	21,247	15.3
その他	13,097	9.4
温泉・健康	7,938	5.7
自然	2,760	2.0

図表38【外国人旅行者数(兵庫県・大阪府・京都府・奈良県)】



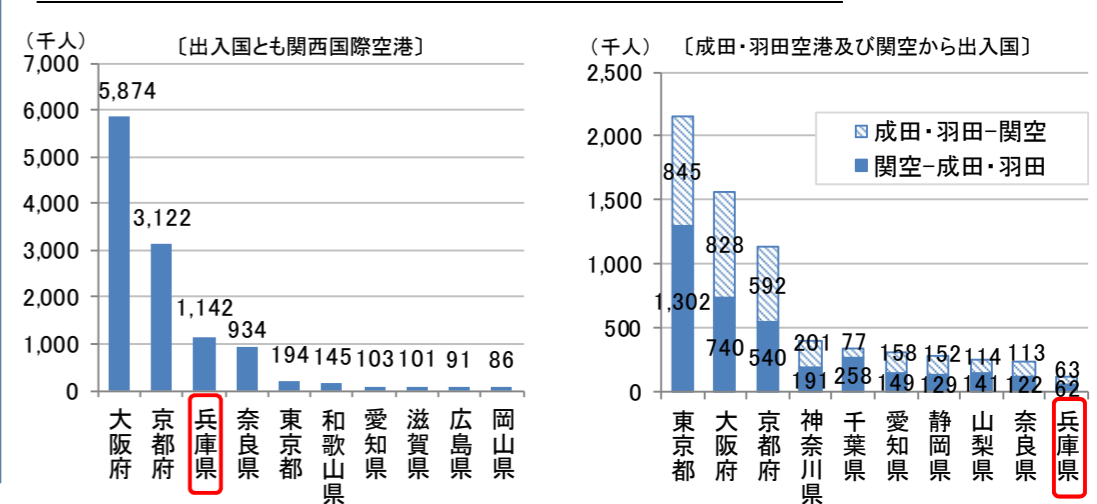
図表39【外国人旅行者の延べ宿泊者数(兵庫県・大阪府・京都府・奈良県)】



図表40【宿泊施設の客室稼働率(H30)】

	全体	旅館	リゾートホテル	ビジネスホテル	シティホテル	簡易宿泊所
兵庫県	55.8	38.8	60.1	71.6	75.8	16.1
大阪府	79.6	43.9	90.8	80.7	87.0	62.5
京都府	64.7	40.8	53.0	82.4	82.2	30.8
奈良県	49.0	31.8	77.7	65.8	74.0	25.4
東京都	80.0	56.6	57.9	84.5	84.6	51.7
全国	61.2	38.8	58.3	75.5	80.2	30.2

図表41【出入国空港別の外国人旅行者訪問地・訪問者数(H28)】



(国土交通省「訪日外国人流動データ」を基に県産業政策課作成)